



Hino Advancement Center Newsletter

日野振興センターだより

平成28年9月発行 no.14

menu

- ・日野郡I・J・Uターン者と^{もん}じげの者交流会in日野町を開催
- ・鳥取県産原木生しいたけの生産拡大
- ・日野町産のシイタケを使ったご当地バーガーで日本一を目指す！
- ・トットリズム推進運動 ～響かせようトットリズム♪～
- ・和牛子牛の生産経営が活況となっています
- ・工事の看板いろいろ
- ・日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習を行いました！
- ・「日野郡3町三色たたらんち」プレデビュー！！
- ・地震のメカニズムを探る ～満点計画進行中！～
- ・日野郡に雲海の季節がやって来た！



移住して来られた方と地元の方の交流が深まり、
地域の新たな魅力発見や活性化につながればいいですね。

日野郡 I・J・Uターン者とじげの者 交流会 in 日野町を**開催**

※
鳥取県の調査によると、平成27年度に県外から鳥取県に移住して来られた方は1,952人で年々増加しており、その数は全国でもトップクラスといわれています。

最近ではここ日野郡にもたくさんの方が移住して来ておられます。それを踏まえて、郡内の移住者同士が交流を深めて困りごとを相談し合ったり、また地元住民とのコミュニティを広げるきっかけになるよう、7月22日に交流会を開催しました。

※とっとり暮らし支援課調べ

日野郡3町と日野振興センターが協力し、今回は日野町山村開発センターでの開催となりました。約50人の参加があり、冒頭で開催地の景山日野町長が、「移住して来られた方が思いの丈を語れるような交流会としたい」とあいさつ。

日野町に移住して来られた女性の方たちを中心に、地元食材を使った料理に腕を振るってくださり、多彩で美味しい手料理に参加者は大喜び。このサプライズ企画に会場が大変和みました。

テーブルごとで話をしたり料理を楽しんだりしたあと、各町の特産品などを景品にして全員でジャンケン大会をするなど、交流の時間はあっという間に過ぎていきました。

最後に次回開催地となる江府町の圓山加代子さんが、「移り住んで来た人と地元の人とが化学反応を起こして地域に元気になってほしい」とあいさつされ、このような交流への期待を寄せてくださいました。各町だけでなく日野郡全体で顔と顔が繋がっていき、住む人のコミュニケーションが図られていくことで地域が活性化してほしいと考えています。

今後も日野郡3町と日野振興センターは連携して、移住者と地元の方との交流を深める取組を進めていきます。



トトリズム推進運動



トトリズム推進運動とは、「豊かな自然」や「人々の絆」、心豊かな暮らしを実現できる「幸せを感じる時間」を活かし、地域の自然、歴史、文化等に応じた地域づくりに向けて、住民団体、NPO、企業など多様な主体が行う独自の地方創生に向けた取組です。

今回は日野郡内における取組事例を紹介します。

奥日野ガイド倶楽部

奥日野五山の登山、出雲街道ウォークや都合山たたら探訪会などを開催し、奥日野地域への観光客の呼び込み及び地域住民が地元の歴史や文化を再認識する機運の醸成に取り組んでいます。



【7/3都合山たたら探訪会】

「いのちと暮らしの映画祭」実行委員会

日野郡3町と岡山県新庄村で自然や人などのつながりを描いた映画の自主上映会を開催します。各会場で上映作品はそれぞれ異なり、映画を通して地方で生きる意味、暮らしの『いま』を問い掛けます。



【7/9日野会場上映会】

江府ビブリオバトル

江府町で知的書評合戦ビブリオバトルを開催します。ビブリオバトルは、参加者がお気に入りの本を持ち寄り、その魅力をディスカッションし、投票により「チャンプ本」を競うゲームです。本を通じて人々の交流機会の創出に取り組んでいます。



【8/7まんがでビブリオバトル in 江府】

みちくさ大山スイカ栽培グループ

江府町で昔から栽培されていた大山スイカの生産拡大、品質向上を図るとともに、伝統野菜としての認知度を高めブランド化を目指しています。倉吉農業高校や江府町などの関係機関が連携し、栽培や加工に関する意見交換会や試食販売イベントを通して、地域農業の振興に励んでいます。



【8/17試食販売イベント】

鳥取県では、このような県内で地域を盛り上げ、より良くする活動を応援しています。興味をお持ちの方、活動に取り組みたい方はお気軽に御連絡ください。

問 日野振興センター日野振興局地域振興課
電話：0859-72-2081 FAX：0859-72-2072 電子メール：hino-shinkou@pref.tottori.jp
鳥取県トトリズム推進補助金のホームページ
<http://www.pref.tottori.lg.jp/127928.htm>



「鳥取茸王」とは？

日野町内で発見されたしいたけ菌を基に、一般財団法人日本きのこセンターが開発した「菌興115号」という菌を使い、ビニールハウス内でゆっくりと時間をかけて大きく育てたものです。

鳥取県では、平成26年3月に、「きのこ王国とっとり」の実現を目指した「鳥取県きのこビジョン」を作成し、「鳥取茸王」を頂点とする県産原木生しいたけのブランド化を始めたところです。

現在県では、原木を安定的に確保し、原木しいたけの生産体制を強化するため、補助事業により原木の取得や種菌の購入等を支援しています。

日野郡3町でも、多くのしいたけ生産者の方々がこの補助事業を活用され、原木しいたけの生産拡大に取り組まれています。

日野振興センターは、これまで高い技術で原木しいたけ生産に取り組まれてきた生産者の理解を得て、日本きのこセンターの指導や関係市町村、JA等の協力を基に、菌興115号による、原木生しいたけの生産拡大を進めていきます。

このような中、本年度は県西部地域で5名の方が、新たな県・町の補助事業を活用して導入するビニールハウスを使用し、原木生しいたけの生産に取り組まれることになりました。

今後、この方々を中心として、これから生産に取り組もうとする方々とともに、生産技術や収益性、販売・流通方法を勉強しながら、「鳥取茸王」のブランドを冠した競争力の高い良品生産と高収入を実現し、新規生産者の参入による後継者の増加にもつなげていきたいと考えています。

こうして生産された原木生しいたけは、今年の冬から店頭にならぶ予定です。



鳥取県産 原木生しいたけの 生産拡大



ほだ起こし

原木の中に菌が伸びて広がったら、しいたけを発生させるために、ほだ木を立てて、風通しをよくしたり、雨水が当たるようにします。



ほだ木刺激

しいたけの発生を進めるために、ほだ木を動かしたり叩いたりして、刺激を与えます。



乾しいたけ販売

乾しいたけは、スーパーマーケットや個人販売の他、いろいろなイベントでも販売されています。



日野町産のシイタケを使った「当地バーガー」で日本一を目指す！

奥日野きのこのコンフィバーガーってご存じですか？
昨年の全国ご当地バーガーグランプリ「とっとりバーガーフェスタ2015」で、全国第2位と特別賞「いちばん美味しかったバーガー賞」に輝いたバーガーです。

特筆すべきは、日野町産の極厚原木シイタケを使ったバーガーであることです。

日野町黒坂のシイタケ農家の広瀬俊介さんが原木栽培にこだわって生産したシイタケと、バーガー専門店（米子市内）の小野寺由香さんのコラボで、なんとも美味なバーガーに仕上がりました。

今年は、10月9日〜10日の「とっとりバーガーフェスタ2016」で日本一を目指します。

日野郡内の各種イベントにも出店されていますので、みなさんも見かけたらいは、是非、迷わず噂の味をご堪能ください。

「日野郡3町三色たたらんち」 プレデビュー!!

日野郡の「たたら」を和・洋・中のグルメで表現した「新ご当地ランチ」が郡内5店舗でいよいよテスト販売スタート

- テスト販売期間/10月22日(土)~11月末
- テスト販売価格/500円(限定333食)
(通常1,000円~1,200円)
- 各店舗1日限定10食

販売店

<和食のたたらんち>

休暇村奥大山、そば道場たたらや

<洋食のたたらんち>

エミーズカフェ(福祉交流センター江美の郷内)、リバーサイドひの

<中華のたたらんち>

ふるさと日南邑ファームイン



※店舗によって提供できない期間があります。
詳細は、交流協HPで随時お知らせします。
<http://www.pref.tottori.lg.jp/hinokankou/>

問 日野郡広域交流促進協議会(日野振興局内)
電話：0859-72-2082 FAX：0859-72-2072

地震のメカニズムを探る ~満点計画進行中!~

平成12年に発生した鳥取県西部地震から今年で16年、日本列島では東日本大震災や熊本地震をはじめとする多くの地震が発生しています。

地震活動予知のためには、震源の様子を正確に調べることが重要となります。このため、全国の大学の研究者からなる地殻ダイナミクス研究グループにより、鳥取県西部地震の震源を中心とした、鳥取県、島根県、岡山県にまたがる半径17kmの範囲に、約1kmおきに設置するという世界でも類を見ない精度の観測が計画されました。

観測は平成29年3月から1年行われる予定です。現在はボランティアによって、各地で地震計設置に適した場所を探る調査をしています。皆様の地域に地震計の設置をお願いすることがありましたら、出来る限りご協力をお願いします。

また、地震計が設置されているのを見つけても、手を触れないようにご注意ください。



▲このような地震計が設置されますので手を触れないでください

日野川の自然環境と 希少生物を守る 体験学習を行いました!

日野川流域は特別天然記念物のオオサンショウウオ(ハンザキ、ハンザケとも呼ばれる)の生息地であることが知られています。

オオサンショウウオは、数千万年前から生き続けている世界最大の両生類で「生きた化石」と言われおり、世界中でも岐阜県以西の日本、中国南部及びアメリカ大陸東部でしか生息が確認されていない希少生物ですが、いまだに十分な生態調査が行われていません。

また、近年、子ども達が自然と触れあう機会が減り、身近な生物等に対する関心が低下していると言われていています。

そこで、日野川の源流と流域を守る会では、日野川流域でオオサンショウウオの生態調査を兼ねた河川調査体験学習会を実施し、地元の高校生や子ども達にふるさとを恵まれた自然を体感してもらいました。

7月8日に日野高校の1年生19名、8月1日に江府小学校の1~6年生36名が参加した学習会では、講師のNPO法人日本ハンザキ研究所副理事長の岡田純さんからオオサンショウウオの生態や希少性について学んだ後、捕獲されたオオサンショウウオの身体計測を手伝い、追跡調査のためのマイクロチップの埋込作業を見学しました。

また、オオサンショウウオの観察後は、たも網を使って川の生物調査を行い、ヤマメやドンコなどの魚も確認され、身近な川の豊かな自然を実感した様子でした。

日野川を守る会では、今後も「日野川流域を守り、子供たちに美しい日野川を引き継ぐ」という会の理念を実現するために様々な活動を続けていきます。



※今回のオオサンショウウオの調査は、関係機関の許可を得て実施しています。

問 日野川の源流と流域を守る会(日野振興局内)
電話：0859-72-2080 FAX：0859-72-2072



▲石橋 弘充さん

問

日野振興局日野農業改良普及所
電話：0859-172-12027
FAX：0859-172-12090



▲江谷 直哉さん

近年、全国的に和牛子牛の生産数が減少していること、高級な和牛肉の需要が拡大していることから、和牛子牛の価格は上昇を続けています。

鳥取県では、肉質の良さ日本一を誇る高い能力の種雄牛が作られていることから、全国の和牛生産者が鳥取県の子牛市場に集まります。今年7月に開催された鳥取県の和牛子牛セリ市場では、1頭の平均価格が97万円を超え、国内トップクラスの高額な市場価格で取引されました。

この好機を活かそうと、日野郡内でも和牛の飼養頭数を増やす動きがみられるようになりました。

3年前に日南町で和牛繁殖経営を開始された石橋弘充さんは、今年新しく牛舎を建設され飼養頭数を増加されました。

また、同じく日南町の江谷直哉さんは、兼業農家として和牛3頭の繁殖経営を開始されました。

この他にも、飼養頭数を増やしたり経営開始を検討されている方もおられ、和牛子牛生産の再興が始まっています。

このような活況を呈する和牛子牛の生産経営に皆様もぜひ参入していただきたいと思います。

経営開始には牛舎施設や母牛導入などの準備も必要です。日野農業改良普及所では、各種補助事業などの紹介を含め経営計画への支援を行っていますので、興味のある方はぜひ御相談ください。

和牛子牛の生産経営が 活況となっています



工事の看板いろいろ

最近、工事中の看板にユニークなものがあるのを御存知ですか。建設業界のイメージアップや、通行される方に対する建設事業の広報活動などを目的に、各社が工夫を凝らしているのです。その背景には、道路や橋梁など社会資本整備を行うに当たって、これまで以上に環境や安全に配慮することが求められるようになったことが挙げられます。

日野郡内の工事現場で見かけた、アニメのキャラクターやマスケットなどを描いたバリケードや、ドライバーへの注意喚起のためのユニークな文章の看板を紹介します。



▲ユニークな言葉でドライバーに注意を呼びかける看板▼



▲子どもたちに人気のアニメのキャラクターをデザインしたバリケード



▲ソフトなイメージのイラストを用いた看板

今回紹介する看板は一部ですが、工事現場を通行するとき看板に注目してみてもいいかもしれません。

問 日野県土整備局建設総務課計画調査室 電話：0859-72-2059 FAX：0859-72-1398



▲江府町・俣野サージタンク

日野郡に雲海の季節がやって来た!

日野郡の秋といえば、各町の山々を彩る色あざやかな紅葉が思い浮かびます。寒暖の差が大きくなって、大山から少しずつ紅葉が裾を広げていく様子は、私たちに深まる秋を感じさせてくれます。そんな秋の凜とした空気の中、もう一つの秋の風物詩は「雲海」。郡内いたる所から見られる霊峰大山とともに、その見事な姿を見せてくれるようになります。

雲海がよく見られるのは、空気が良く冷えて風が穏やかな10月末頃から12月初め頃までです。冷えた空気が水蒸気を発生



▲日南町・丸山桜子峠(ダワ)

させ地表に留まる必要があるため、日野川が流れ周りを山々に囲まれた日野郡の3町はまさに雲海発生にピッタリの地形です。さらに雨を蒸発させる力の強い森林も豊富なため、雨が降った次の朝は雲海の見られる確率がグンと高まります。

今回は日野郡各町の代表的な雲海オアシススポットを紹介いたします。江府町は俣野サージタンクで、大山が手に取るような近さに見られ、雲海と大山のコラボレーションが見事です。日野町は有名スポットの明地峠で、展望駐車場や国道沿いの公園が



▲日野町・明地峠

らの大きく開けた視界を雲海が覆いつくす様子は必見です。日南町は丸山桜子峠(ダワ)で、近年の森林整備によって眺望が開けたスポットで、屏風のように連なる中国山地の山々と雲海の織り成す景色は敵かですらありません。

この時期の明け方に「今朝は低い雲が垂れているなあ」と思う日は雲海と出会う絶好のチャンス。皆さんも、日野郡の雲海スポットを巡ってみませんか？

